

日本損害鑑定協会

会長 太田 英俊



今年元日から能登半島で巨大地震が発生し、2日には羽田空港で航空機事故が発生する等、大変な年明けとなりました。被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。ことしも、1日も早く平穏な日々が戻れることをお祈り申し上げます。

改めて、新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は記録的な猛暑と

なりましたが、早くから雪災・地震・台風・豪雨等による被害が多発しただけではなく、世界情勢の悪化に伴う物価高騰を初め、損害保険業界においても諸問題が発生し、暗い話題の多い1年であったように思います。

また、新型コロナウイルスや、インフルエンザの流行だけでなく、そのどちらでもない感染症も広まっているようです。で、各位におかれては、健康管理には十分ご留意いただきたいと思います。

今年辰年で、「陽の気が動いて万物が振動するので、活力旺盛になっ

て大きく成長し、形がととのう年」だといわれているようです。その勢いを借りて、当会も大いに伸展できるよう期待したいと思います。

昨年は、多くの会員が自然災害をはじめさまざ

まな事故への対応で多忙を極める中で、12月2日に当会の一大イベントである損害鑑定フォーラムを開催いたしました。

今回第9回目の開催となり、関係者のご尽力により200名を超える会場参加者に加え、多く

の方々にWEBで視聴いただき、過去最大の参加人数となりました。

本フォーラムは、損害鑑定の健全な発展を目的とし、会員および関係者向けに、損害鑑定に関する専門知識や研究結果等の共有を行う場として開催を続けています。

今回は、環境に優しい未来のための再生可能エネルギーとリサイクル事業に注目し、「太陽光

の関係者に参考となるフォーラムをお届けできたと考えております。引き続き、関係各位につき、有益な損害鑑定フォーラムを開催していきたいと思っております。

ご参加、ご視聴、またご支援いただいた皆さまに、改めて厚く御礼申し上げます。

当会は1975年10月にそれまで独自に組織されていた東西の鑑定人協会、ワーキンググループ

を統合し、任意団体「日本損害保険鑑定人協会」を設立したことが始まりです。その後、損害鑑定業界唯一の団体として、鑑定人協会と損害鑑定業界の信頼性の向上と、さらなる成長を目指し、2010年5月に一般社

団法人として法人化し、現在、公益社団法人の認定を得るに至っております。

おかげをもちまして、2025年10月に創立50周年を迎えるに当たり、損害鑑定業界の発展と当会のあゆみを次世代に引き継ぐべく、50周年史の作成に着手することいたしました。

また、理事会や各委員会、ワーキンググループ等の活動を通じ、教育研修体系(Adjusting Skills College)の整備、技能認証制度の研究、女性活躍の推進、損害鑑定人の業務環境改善等の取り組みを進めてまいりました。特に技能認証制度については、継続的な専門

教育体系(CPD)の充実・発展を目指し、損害鑑定能力を客観的に評価できる技能認証制度の研究を進めていますが、まずは生涯教育とスキルアップに重点を置き、損害鑑定人に必要な知識とスキルを網羅した、協会統一テキストの作成について検討を進めています。

今年も、これらの活動を中心に積極的に取り組むとともに、新たな課題についても、研究、対策等を進めてまいります。

昨今は、減少の気配が見えるとはいえ、自然災害に便乗した悪質な修理業者等の存在や、損害保険を取り巻く環境に対して、いろいろな厳しい声も聞かれておりますが、当会では公正・誠実・迅速な損害鑑定を推進することにより、業界の健全な発展と国民生活の安定

専門教育体系の充実目指し統一テキストを検討

・向上に貢献すべく、力を尽くしてまいります。誠に勝手ながら、本年も、皆さまが御健康で御多幸でありますよう、心からお祈り申し上げます。

(見出しは編集部)